

5.19~21 広島サミットまで あと100日

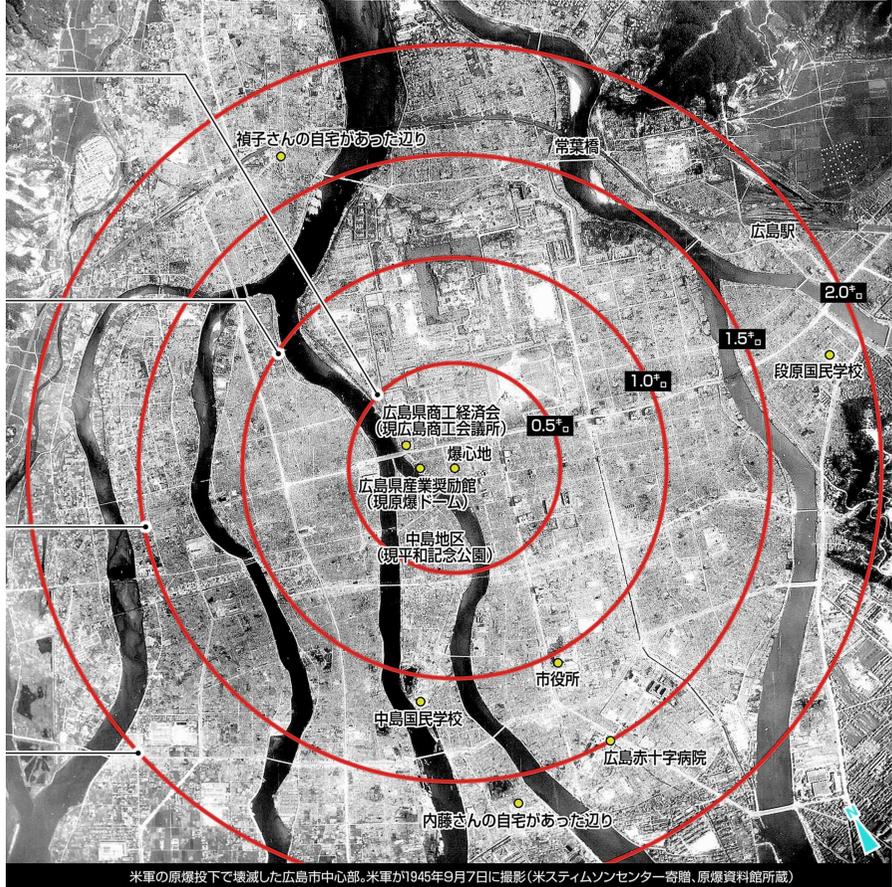
から感じて

核兵器が一発でも使われれば、どれほど悲惨か。78年前の米軍の原爆投下により、人類史上初の被爆地となった広島は訴え続けてきた。ウクライナに侵攻したロシアはもとより、あらゆる国の核保有、使用は受け入れられず、廃絶するしかない。広島市での

先進7カ国首脳会議(G7サミット)の開幕まで8日であと100日。核兵器のない平和な未来を目指す上での原点の地に、核兵器を持つ米英仏3カ国を含む各国の首脳が初めてそぞろ踏みする重みを考える。(1面関連)



原爆による広島市中心部の被害状況 ※2°以内の距離別の死亡率は、東京帝国大(現東京大)医学部の調査班が1945年11月時点の死亡者の割合を算出した推定値。調査班は、広島で2°以内で被爆した人898人(うち死亡者507人)の状況を調べた。

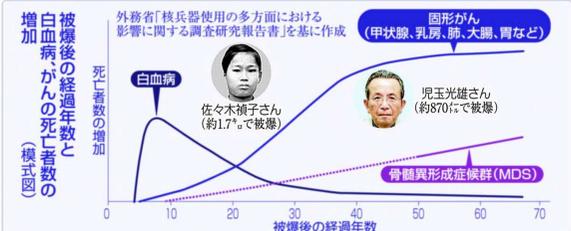


広島サミットの主場となる広島市南区元手品町のグランドプリンスホテル広島から北へ5.8... 1945年8月9日、米軍が投下した原爆は、市中心部であった広島陽明内科医院(中区)に在り約600名を殺した。爆心地から約1.5km以内は、猛火が燃え、建物が倒壊し、原爆の熱線や建物内の火気による大火災が起き、鉄筋建物も倒壊した。市の46年8月の調査では、2°以内にあつた約4万5千戸の約98%が全壊・全焼。市内全約7万5千戸の約92%が、半壊以上の被害を受けた。爆心地近くには、皮膚が黒焦げに炭化するほどの焼かれた。大混乱の中、おびただしい遺体が身元確認もできないまま火葬され、平和記念公園(中区)の原爆犠牲者は約7万5千とされる身元不明の遺骨が眠る。45年未だに、出血性の放射線の急激な害が及び、即死を免れた人の命も奪った。

市が一般的に平年と異なる犠牲者数の推計は、14万人(誤差±1万人)。検証のため、市は犠牲者名簿が書かれた各種資料を集計する態勢を整えているが、2019年9月末までに確認できたのは8万9005人にとどまる。一家を滅した世帯朝鮮半島出身者などの情報が足りないとみられる。放射線の影響は46年以降も続いた。広島、長崎の医師たちの研究では、白血病の増加は被爆6~8年後にピークを迎え、被爆者の発症率は被爆していない人の4~5倍に達した。その後、肺や胃などの臓器がんも増加。放射線で遺字が傷つけられたのが原因と考へられている。被爆50年を過ぎ、白血病に移行しやすい骨髄異形成症候群(MDS)の増加も指摘されるようになった。ただ、原爆投下後に降った放射性物質を含む「黒い雨」をはじめ、健康影響は研究途上の点が多々ある。(編集委員・水川恭輔)

一発多岐にわたる非人道的な被害をもたらす核兵器「ストックホルム国際平和研究所(SIPRI)」の推計では、22年9月時点の7カ国が計1万705発持つ。G7参加国では、米国5488発、英国555発、フランス300発。最多は年にサミットから追放されたロシアの5977発だ。権力者による意図的な使用だけでなく、サイバー攻撃や事故による爆発の危険もある。首脳が集う元手品町には原爆投下後、大けしどの人が何人も運ばれ、次々と息を引き取った。爆心地そばの平和記念公園に至る1.1kmの町にも奪われたり被爆者の苦しみが続いている。元原爆資料館で被爆者の原田浩さん(83)は安佐南区IIは「限られた時間資料館を見なければ被爆の実態は伝わらない」。首脳たちが「足元」から核兵器をなくす必要性を痛感すべしと願う。

非人道的な被害 広く長く



広島市が1976年に国連に報告した推計	14万人±1万人
広島市原爆被爆者動態調査	8万9025人(2019年3月末現在)
広島市原爆死没者名簿(46年以降の死没者を含む)	33万3907人(2022年8月6日現在)

紙面編集 杉原和希

広島サミット 原点の地で



平和記念公園に立つ内藤さん。「核廃絶の手だてを本気で考えてほしい」(撮影・高橋洋史)

【広】 島市南区の被爆者内藤さん(84)は昨春体験語り始めたばかりだ。...

一家7人被爆 体験語り始めた内藤さん(84)

「生きてる間に」 決意の証言

兄二人は朝、家を出た。英樹さんは空襲に備え防火帯を巻く作業に駆り出され、市役所近くの雑草場町(現南区)へ。...

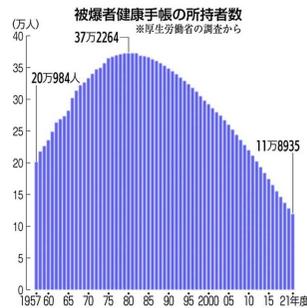
廃絶への道 本気で議論を

【親】 威の勘で高校を出た後、内藤さんは電力会社に就職。結婚し、娘二人を授かった。...



内藤良蔵さん 英樹さん 隆夫さん 隆子さん

被爆者の肉声 限られた時間 手帳所持者 最多の3分の1以下



広島、長崎の被爆者は自身を削り、つらい記憶を語ってきた。他の誰にも理解しにくい思いを吐くことに、心のなかで、その肉声を聞く時間に限りがある。...

核の惨禍「足元」



0~0.5°. 死亡率98.4% 人間が猛烈な熱線に生きながらに焼かれ、死亡率は100%に近かった。被爆して溶けた互の研究などで爆心直下は瓦を3千度以上に加熱する熱線が降り注いだと推計されている。...

0.6~1°. 死亡率90% 東京帝国大の調査によると、約7割の人が熱線や爆風による被害で被爆当日かほぼ同時期に亡くなった。その後、放射線の影響とみられる死者が相次ぎ、45年11月の死亡率は約2割増の9割に達した。...

1.1~1.5°. 死亡率45.5% 熱傷や放射線の影響などで約半数の人が命を奪われたとみられ、幼子も犠牲になった。当時3歳だった飯谷伸一ちゃんは爆心地から約1.5°北東、常葉橋西詰め近くの自宅前で三輪車で遊んでいる時に被爆。...

1.6~2°. 死亡率22.6% 東京帝国大調査では死亡率は約2割だったが、渡る物なしに熱線を浴びた人に限れば、死亡率は約8割に上ったと推定した日米合同調査団の調査結果もある。...